

研究 成 果 報 告 書

2020年08月26日

1. 所属・職・氏名 等

文学部 教授 早野慎吾

2. 研究課題（テーマ）名

外国人児童生徒の日本語支援に関する研究

3. 研究期間

2018年度～2019年度

4. 利用した研究費の種類及び金額

特別教育研究費交付金 1,000,000円(2018年度 500,000円 2019年度 500,000円)

5. 研究の概要

本研究では次の2項目を行った。

(1) 日本語教材開発

(2) 外国人児童生徒支援のための「学校通知文作成ソフトウェア」の開発

現在日本のマンガは世界的に認められており、H12『教育白書』(文部科学省)に日本の誇る文化と記載されたが、筆者らは、マンガを活用した言語教育を模索している。マンガを活用した教育については早野 宮田 松井(2019)で既に紹介しており、本研究では、マンガを活用した小学校国語科教育および外国人児童生徒への日本語教材開発を行った。

次に外国人児童生徒支援のための「学校通知文作成ソフトウェア」の開発であるが、これは2009年から行っている研究で、今回は、フランス語版とインドネシア語版を作成した。

6. 研究成果等

(1)については、まずコミック原作の表記のみを初級日本語に変換した教材作成を目指した。これはマンガ家の宮川サトシ氏の協力を得て、宮川サトシ原作・伊藤京作画の『宇宙戦艦ティラミス』1(新潮社 2016)の初級日本語版を試作品として作成した。本書を多摩地区の外国人児童生徒に使用したところ、一定の日本語能力の向上が観察できた。ただし、児童にはストーリーがわかりにくい事などがあり、児童に適した作品の選定する必要が生じた。作品選定にはマンガ家のみなもと太郎氏の協力を得た。マンガを活用した研究として研究論文5・6・9をまとめた。

もっとも難しい日本語が使用されているといわれる社会科教科書(『新編新しい社会 5下』)の表現を中級日本語で言い換えた教材開発を行った(研究論文4)。

(2)については、「外国人児童生徒支援のための学校通知文作成ソフトウェア」のフラ

ンス語版とインドネシア語版を作成した。これは、英語版、ポルトガル語版、中国語版をすでに発行しており、立川日本語・日本語教育研究所のホームページから無料ダウンロードできる。既に200件を超えるダウンロードが行われている(2020年8月21日現在)。

7. 研究の実績(論文・発表 等)

研究論文

- 1 早野慎吾 宮田好恵 松井洋子他(2020)「外国人児童生徒のための『学校通知文作成ソフトウェア(フランス語版)』」『日本語文化の研究』 3 pp. 26-56
- 2 早野慎吾 青山亨(2019)「外国人児童生徒のための『学校通知文作成ソフトウェア(インドネシア語版)』」『外国人児童生徒への日本語支援』立川言語文化研究会 pp.25-62
- 3 早野慎吾(2019)「外国人児童生徒に対する日本語支援研究」『外国人児童生徒への日本語支援』立川言語文化研究会 pp2-11
- 4 早野慎吾(2019)「JSL 児童用教材の開発研究」「外国人児童生徒に対する日本語支援研究」『外国人児童生徒への日本語支援』立川言語文化研究会 pp12-24
- 5 早野慎吾(2019)「マンガを活用した言語教育—コミック文化の活用法—」『日本マンガ学会第19回大会発表要旨集』 pp.22-23
- 6 早野慎吾(2019)「マンガを活用した国語教育3—小学校の古文教育—」『日本語文化の研究』 2 pp.1-10(審査付)
- 7 宮田好恵(2019)「多摩地区の日本語指導に関する研究—東大和市の状況について—」『日本語文化の研究』 2 pp11-18(審査付)
- 8 松井洋子(2019)「非日本語話者の日本語理解度に関する研究—教育に求められるメタ言語能力—」『日本語文化の研究』 2 pp19-26(審査付)
- 9 早野慎吾 宮田好恵 松井洋子(2018)「マンガを活用した国語教育2—授業実践から—」『都留文科大学研究紀要』 88 pp.27-38

研究発表(学会発表)

- 1 早野慎吾(2019.6)「マンガを活用した言語教育—コミック文化の活用法—」日本マンガ学会第19回大会(於熊本大学)
- 2 早野慎吾(2020.7)「コミックを活用したデザインマンホールの研究—路上を演出するコミック景観—」2020年日本マンガ学会オンライン研究発表会